

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4770700146		
法人名	医療法人 緑の会		
事業所名	グループホーム イジュの花		
所在地	沖縄県石垣市字大浜453番地の12		
自己評価作成日	令和元年 9月15日	評価結果市町村受理日	令和元年11月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=4770700146-00&amp;ServiceCd=320">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=4770700146-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	令和元年 10月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

第2の家庭づくりを理念に掲げ、利用者が生活の場として安心できるように家族や地域との関わりを大切にしている。ご家族には常に来訪を促し、施設や地域の行事には一緒に参加するように都度連絡している。地域の祭り等への参加で近隣住民との関わりもあり、緊急時の避難訓練には地域住民が協力している。又、利用者通しの交流や一緒に作業ができるように共用スペースを広く確保している。日中はフロアで自由に過ごせるように、テレビやDVDなどを設置、ほとんど離床して楽しんでいる。できる事を促進するために排泄や食事は見守りか軽介助で支援している。その他地域や家族からの差し入れも多く、食事やおやつに利用している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は住宅地の中にあり、入り口は鉢植え等が置かれ、事業所内は利用者の作品で迎えられ、ハロウィンにちなんで壁面装飾が掲示され、季節感が感じられる。地域連携として、中学生の職場体験や歌三味線と踊りなど、毎月多数の訪問交流がある。隣接の老人センターと連携し、防災訓練等は近隣住民の応援体制ができています。馴染みの関係継続として、行きつけの美容室の利用、市場で野菜の買いをしていた利用者や市場訪問し、友人の来訪や宗教新聞を継続購読する方がいる。地域の豊年祭や地域行事に参加し、そのDVDを放映して旧知の関係を保持するよう支援している。今回の法改正についても就業規則が変更され、完全週休2日を実施し、年休は職員の要望で取得し、昼休みを交替で取得している。職員の健康診断は法定どおり実施され、インフルエンザ予防接種は法人補助があり、職員は1,200円で事業所内で全員が受けている。食事は、3食事業所で調理し、円卓を全員で囲み、2~3名以外は食卓椅子を使用して食後に車椅子に移乗している。食事の場所とテレビなどを視聴する場が、用途に合わせて区分され、居心地よく過ごせるように家具を配置している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和元年11月22日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	食事前には必ず利用者・職員と一緒に理念を唱え、確認している	理念の共有と実践として、「お一人、ひとりを大切にし目配り、気配り、心配りに努め、住み慣れた地域の中で～」と理念は地域密着型サービスの意義を踏まえた内容となっている。職員と利用者は毎日3回、食前に理念を唱和し、共有している。日々の支援の中で理念を実践しているかについて確認するようにしている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の自治会へ入会して、行事や避難訓練に参加。協力している。地区の防災倉庫の鍵を双方で保管し、緊急時に役立っている	事業所と地域とのつきあいは、自治会に加入し、民生委員が運営推進会議の構成員として参加している。地域の敬老会や豊年祭は利用者も毎年見学している。中学生の職場体験や地域エイサーの来訪、元職員による歌三味線と踊りなど、毎月多数の訪問交流がある。隣接する老人センターと連携し、防災訓練等は、近隣住人が車椅子介助等の応援に来てくれる体制ができている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で地域密着事業所の役割や認知症介護について説明し、地域へ出かける時や訓練時などに車いすを押ししてもらい体験させている。又介護体験や学校からの職場実習も積極的に受け入れている	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議(2か月毎)で活動報告やインシデント等を報告し、伺った意見や要望は事業所運営やサービスの質の向上に役立っている	運営推進会議の取り組みについては、年6回開催し、地域包括支援センター職員や利用者、家族等構成員の殆んどが毎回参加し、今年1月から知見者も加わり活性化している。活動状況や事故・ヒヤリハットが報告されている。構成員からの要望や助言・質疑応答について議事録が作成され、公表されている。外部評価の結果については、構成員にコピーを配布している。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から市の担当者とは入退所情報、介護認定更新や認定情報の閲覧、法改正の解釈など、常に連絡、確認している。又地域包括支援センターからの入所者受け入れの連携相談もある。	市町村との連携については、行政担当者に運営推進会議の議事録を送付し、利用者の入退所情報の連絡等を行っている。法改正時には解釈説明を受け、研修等の連絡を受けている。地域包括支援センターの職員が運営推進会議に参加し、地域包括支援センター主催の研修にも職員が多数参加している。

自己評価および外部評価結果

確定日:令和元年11月22日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない方針で取り組んでいる。居室には鍵はなく玄関は施錠していない。出たがるときは職員と一緒に付き添っている。その他身体的拘束の具体的な行為については職員会議等で話し合い、適切な対応を身体的拘束適正化委員会で確認している	身体拘束をしないケアの実践については、身体拘束をしない方針で取り組んでいる。身体的拘束の適正化のための指針を整備し、適正化委員会も2か月毎に運営推進会議において実施され、議事録も作成されている。職員に対して会議の結果の周知は口頭で報告している。研修については法人合同で実施することとなっているが、実績が確認できなかった。	身体拘束についての年2回以上の研修の実施、及び適正化委員会の会議録の職員への周知が望まれる。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	管理者や職員が法人主催の研修会や外部研修会等へ参加して、持ち帰り方式で全員に周知徹底している。お互いに常に観察や目視で確認している	虐待の防止の徹底については、高齢者虐待防止マニュアルを整備し、地域包括支援センター主催の研修を年2回受講している。虐待予防への配慮として、職員のストレスチェックは毎年実施している。職員に不適切な関わりがあった場合は、その場で注意するようにしている。職員のストレス解消として年2回カラオケ等に行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政や法人関係の研修会に参加している。現在対象者はいないが、後見人からの問い合わせや相談もあるので活用したいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には本人、家族に重要事項説明書にて説明を行い、了解を得て契約を締結している。又法改正があった場合は文章にて説明、同を得ている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日ごろから利用者や家族から意見を伺うようにしている。年1回は家族アンケートを実施して意見を伺っている。又玄関にもご意見箱を設置していつでもいけにや要望が言えるようにしている	運営に関する利用者、家族等意見の反映については、重要事項説明時に、要望や苦情についての対応や意見箱の設置が説明されている。利用者については日ごろのケア中で聞くことが多いが、家族アンケートを実施するとともに、来訪時にも聞いている。ドライブに連れて行ってほしいとの要望があり、法人のリフト車を利用して車いす利用者も一緒に毎月ドライブを実施している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和元年11月22日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日ごろから職員の要望や意見を伺い、法人の管理者会議等で管理者が伝えて反映している	運営に関する職員意見の反映としては、管理者は2か月に1回開催の職員会議で意見を聞く機会としている。さらに、職員の要望等は連絡帳に自由に記入してもらっている。職員から勤務時間の変更の要望があり、早番と夜勤の勤務時間を変更している。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が毎月勤務状況や実績等を報告し、手当や祝い金等の支給もしっかり請求している。又休みや有給休暇も個々の要望を受け入れ調整している	就業環境の整備については、就業規則は法人で整備し、今回の法改正による年休5日付与についても規定されている。完全週休2日が実施され、年休は職員の要望で取得され、昼休みも交替で実施している。職員の健康診断は夜勤者は2回、日勤者は1回実施されている。インフルエンザ予防接種は法人補助があり、職員は自己負担1,200円で事業所内で全員が接種を受けている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務上研修会への参加は難しいが、できるだけ休みを利用したり、参加できない時は現場や職員会議等で直接指導している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は交流の機会はない研修会で同席した場合や、電話、又は直接訪問してお互いの活動内容やケアの実践について意見を交換している。ネットワークの必要性は感じている		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面会時の印象や家族、入居前の情報から察して、ご本人が安心感が持てるようにゆっくり時間をかけて話を聞いている。時にはな顔じみの職員を交えて対応する時もある		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和元年11月22日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の支援に共感して、入居後も安心してもらえるように不安や思いをしっかりと聞いて親近感が持てるように対応している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでの生活の様子から困ったことや不安なことを聞いて、優先に対応できるようにしている。必要に応じて家族の協力も依頼している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる事やこれまでの活動や日課を大切にし、家族の一員として接するようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者は家族を最も信頼していることを常に伝え、いつでも一緒に支えていることで絆が保たれるように、入居後も関係構築に努めている		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族はもちろん、地域の友人や知人等の面会を歓迎している。自宅に帰ったり、なじみの食堂で食事をしたり美容院を利用したり、地域や思い出の場所をドライブしている	馴染みの関係継続の支援として、行きつけの美容室に通い、市場で野菜の商いをしていた利用者を市場にお連れすると懐かしい話を思い出される利用者もいる。友人が訪ねてくる利用者や宗教新聞を購読している方には読んであげるなど馴染みの場や人との関係性を継続している。利用者の出身地域の豊年祭や地域行事に参加し、そのDVDを度々放映して旧知の関係が途切れないように配慮している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和元年11月22日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者がお互いに交流できるように必ず複数で同席し、食事やレクが楽しめるように工夫している。又気が合うものどおしので個別におしゃべりができるように家事手伝いなど一緒をお願いしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状況の変化によりやむを得ず支援が困難になった場合でも医療機関や系列の法人事業所と連携し、受け入れや対応を依頼している。退去後も関係は維持している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の行動や表情などで思いや意向を察して職員間で話し合い対応している。時には家族にも相談して協力を依頼している	思いや意向の把握としては、利用者の思いは日常生活の中で聞いて、職員間で話し合い情報を共有し、場合によっては家族の協力も得ている。調査当日も利用者の2~3人から「ここに来てとても幸せ」「とてもありがたい」「こんなに良くしてもらっていいのかしらと思う」「出身地域の敬老会に参加した」など自ら声をかけてくるなど、一人ひとりの思いや意向が把握され、支援されていることが伺えた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報収集時に家族や、関わってきた事業所のスタッフやケアマネから把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	観察や介護記録・申し送り等から、一日の過ごし方や流れをを把握、現状を確認している		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和元年11月22日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活やその他、変化があった場合は申し送りや職員会議等で話し合い、課題を分析してかかりつけ医や本人、家族に説明し、意見を伺い変更や見直しを行っている。	チームでつくる介護計画とモニタリングは、2か月に1回実施する職員会議でカンファレンスを行い、利用者や家族からは課題について意見を聞いて、計画作成担当者が介護計画を作成している。介護計画の長期目標を認定期間(1~3年)で設定し、短期目標を6か月としてモニタリングは6か月ごとに実施している。介護計画に級長として理念の唱和や片づけ等の号令をかける役割が位置付けられている利用者がある。随時の見直しはされていない。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録でその日の様子やケアの実践状況を確認、申し送り時やケア会議(職員会議)で内容の見直しを検討、変更している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期受診や帰宅など送迎が困難な場合は事業所から送迎を行い負担を軽減している。日用品の買い物や補充など代理で行うこともある		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公民館や老人会のイベントに参加したり、豊年祭やハーリーなど、又知人が慰問やボランティアなどで来訪し楽しむ機会もある		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の係り付け医との関係を重視し、受診時には近況を報告、療養上の留意点を確認している。内服薬の残薬調整も依頼している。現在4名の方が訪問診療を利用しており、連携している	入居前のかかりつけ医継続が5人で、訪問診療を受けている利用者もいる。家族が義務として通院介助しているが、無理な時は事業所が対応することもある。受診時は、本人の状況を文書で情報提供している。主治医に文書で病状説明を行い、薬を減らした事例もある。後期高齢者健康診査等の受診は家族に任せているが、現在2人の受審結果が提出されている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和元年11月22日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職の配置はないが、気になる時は系列の法人施設の看護師の相談したり、訪問診療の看護師に連絡している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必ず医療連携パスを提出、連携を図っている。入院中は病院を訪問して、主治医や病棟看護師からも情報を収集、退院後の受け入れや退院後の生活について助言を受けている		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当事業所では終末期ケアの取り組みはしておらず、グループホームにおける支援が困難になった場合は家族に説明して、病院や他の施設を紹介している。入居時に本人、家族に説明している	看取りに関する指針については、重要事項説明時に家族に説明している。医療的ケアの必要性については、診断書で確認し、医療的ケアが必要な場合は系列の施設への紹介等を行っている。急変時の治療方針に関する意向は、家族から確認書を提出してもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを常備して参考にしている。職員は手順は概ね共有しており、家族や管理者への連絡、救急車要請などすぐに対応している。特に訓練はしていない		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防避難訓練は年2回(昼・夜)実施している。又行政や地域の合同訓練にも参加。自動通報システムには近隣や地域の方も登録して、協力を依頼している	火災避難訓練は、9月は昼想定、3月に夜間想定で実施している。地域の津波想定防災訓練にも参加している。自動通報システムは地域、近隣住民へも連動して地域の応援が得られる体制になっている。備蓄については、冷凍食品のパンや野菜が利用者分のみ準備されている。	備蓄に関しては、冷凍食品だけでなく、停電になっても対応できる備蓄品の選択、及び物品リスト等の作成が望まれる。



自己評価および外部評価結果

確定日:令和元年11月22日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室への入退出時は必ず声掛けやノックを行っている。プライバシー保護のため、部屋の入口には花の名前を提示してある。一人一人を尊重し、呼びかけや対応など言葉使いには特に注意している	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保は、利用者の在室時はドアを閉め、トイレはドア付きとカーテンがあるが、使用状況は全く見えない造りとなっている。本人の誇りを損ねるような言葉づかいや対応については、管理者が注意している。利用者がソファから立ち上がると、職員はそっと付き添い、利用者の行動を尊重した支援がされている。居室前の名前や写真の掲示は口頭で了解を得ているが、文書での同意を期待したい。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日課の中で変化があった場合など寄り添って話を聞いたり、一緒に行動したりして思いを受容している。余暇時間はレクや手工芸など本人に任せて自由に参加させている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時や就寝時の着替えや、朝食までの時間など本人のリズムに任せている。一日の過ごし方も特に制限せず自由にしている。ドライブ等、希望があれば実施している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好きなように散髪のカットや時々にはマニキュアなどおしゃれをしている。又外出時や行事には好きな洋服を選ばしている		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きなメニューを聞いて献立表に反映している。季節に合わせた料理も取り入れ、一緒に料理したりして懐かしんでいる。おやつは手作りや差し入れのお菓子を頂くなど毎日変えている。イベントには祝い膳を提供して喜ばれて多る	食事は、職員が15日分ずつの献立を作り、3食調理している。利用者は材料を切ったり、お膳ふきなどの役割を担っている。食事は全員で囲む円卓を使用し、2~3名以外は食卓椅子を使用し、食後に車椅子に移乗している。食器は新しい強化陶器も使用され、全員が箸を使用し、一対一の介助で完食できるように支援している。管理者一人が同じ食事を摂っている。ビニールエプロンを使用している利用者がおられる。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和元年11月22日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量と水分のチェック毎日を行い、確認している。必要に応じてカロリー食や水分の補給も行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方、歯磨きやうがいに介助が必要な方を個別に対応して状態を確認している。義歯の方も洗浄とうがいを促している。寝る前に義歯は洗浄剤に浸けている		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は定期的にトイレ誘導を行い自立を維持させている。夜間はポータブルトイレを使用。各自の排泄パターンを職員が共有して失敗を予防している。又排尿量のチェックを行い、確認している	排泄の自立支援については、排泄パターンを把握し、日中はトイレ排泄を支援している。夜間はポータブルトイレを使用している。基本的には同性介助としているが、体制的に異性が介助する場面があるが、利用者が同性を希望した場合は、職員を交替して対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分摂取など野菜を多く取り入れて便秘の予防に努めている。ヨーグルトや牛乳なども多く提供している。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回だが本人の希望や状況に応じていつでも対応している。時間帯は午前中に好きな順番を決めてタイミングを合わせている浴室では好きな音楽を流してリラックスできるようにしている。	入浴は、週3回午前中を基本としているが、利用者の希望に応じて対応している。入浴は、一人ひとり支援し、羞恥心への配慮として、タオルを掛けるなど行っている。着替えの服は、本人が選択できるよう支援している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和元年11月22日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝は自由にさせている。テレビを観たりおしゃべりをしたりして就寝まで付き合うこともある。昼寝も各自に任せている希望により消灯や空調の調整も行っている		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬説明書や変更があった場合は申し送りでも確認している。服薬確認でチェックしている。本人の状態を観察して副作用や効き目のないような時は係り付け医に報告する時もある。下剤は適宜調整している	薬の変更があった場合は、申し送りの連絡簿に記載し、確認済みのサインをして変更を共有している。薬の説明書は、見易いよう連絡簿の横に置いている。薬の保管は、管理者が行い、与薬は朝・昼・夜の担当が食後に飲ませ、2重チェックすることで誤薬はない。服薬による変化をかかりつけ医に情報提供した事例もある。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の性格や得意なものを生かして家事手伝いや食事前のあいさつをお願いして役割を持たせている。レクや手工芸なども皆が楽しく参加できるように工夫している。希望によりドライブや散歩などもある		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の行事以外でもドライブ等で市街地や公園、街並みなど、初めての場所を見学している。自宅周辺や思い出の場所など希望があれば出かける時のある	日常的な外出支援として、利用者は毎朝玄関先のベンチに腰掛けて、朝日を拝むことを習慣としている。毎月ドライブがあり、車いすの方は家族の協力を得て外出している。隣接する老人福祉センターに出向き、市内各地から参加してのグラウンドゴルフ大会等がある場合は、出身地域の知人との交流や応援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持したり、使うことは殆どないが、初もうでのお賽銭や、買いたいものがある時は家族に連絡して協力を依頼している		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和元年11月22日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に連絡したいときはかけてあげたり、家族からかけるように連絡している。贈り物が届いた時にはお礼の電話をかけてお話をさせている。又手紙が届いた時は代読したり、葉書を出させたりしている		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有フロアにはいつもお花や季節の飾り付け、好きなぬいぐるみなどを常置している。常時好きな音楽(童謡・民謡など)を流して一緒に口ずさんだり、楽しんでいる。室内は自由に行き来でき良に開放、照明や温度調節は適宜行っている	居心地のよい共用空間づくりについては、玄関先に植木があり、家庭的な雰囲気、共有スペースには、利用者と職員の共同作品が多数展示され、ハロウィンにちなんで壁面装飾が掲示され、季節感が感じられる。食事の場所とテレビやDVDなどを視聴する場が、用途に合わせて区分され、居心地よく過ごせるように家具を配置して工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士が団らんしたりテレビを観たりできるようにソファを設置している。又家族や職員とくつろげる場所。一人で外が眺める場所など椅子を配置している		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には好きな小物や家族の写真など思い思いに配置している。又家族と一緒に過ごせるようにソファやいすも準備している。ベットやタンスの配置は本人、家族の任せている	居心地よく過ごせる居室の配慮として、クーラーやベッド、クローゼット、ソファ、洗面台が備え付けられている。家具の配置は本人や家族に任せられ、室内には時計や写真、装飾品等馴染みの物が持ち込まれ、独自の環境を整えている。日中使用しないポータブルトイレが目につくところに置かれており、目立たない配慮が望まれる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	花の名前で自分の部屋が分かるようにしている。タンスには自分で取り出せるように中身をかいてある。又トイレや浴室はべんじょ、おふろと分かりやすく買っている。トイレには自分でも交換できるようにリハパンやパットを個別に常備している。手すりを多く設置して安全を確保している		